

公益社団法人日本青年会議所 2024 年度 基本方針	
新潟ブロック協議会 会長 井浦 義太	
ブロック協議会の未来	人と地域の調和で未来を切り拓き笑顔あふれる新潟を実現する 一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら活動し、地域の次世代を担う青年たちが未来を切り拓くことで笑顔あふれる新潟を実現します。
ブロック協議会の役割	ブロック協議会は本会や地区協議会と県内 LOM との総合連絡調整機関であると同時に県内 LOM に対して総合的な支援を打ち出すことが大切な役割です。また、今後の各 LOM の未来を考えると事業支援に留まらず、会員拡大や県外 LOM 及び他団体との交流の起点となる必要があります。
ブロック連携事業 (政策手法)	1.地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動 日本経済の成長のけん引役として期待されているインバウンドに着目し、ブロック内でインバウンドに取り組む重要性を発信、啓蒙します。日本 JC が開催する、インバウンド戦略会議(仮称)と連携し、各 LOM が地域のステークホルダーを巻き込みインバウンドを推進し、地域経済が活性化するための支援を行います。
	2.理念共感拡大グランドデザインの情報収集・活用・推進 各 LOM の理事長に会員会議所会議などの場を活用して理念共感の大切さを知っていただき、各 LOM メンバーに浸透させると同時に各 LOM での研修に取り入れてもらえるようにブロック協議会から働きかけをしていきます。また、各エリアのエリア長と連携をして、各 LOM に理念共感の大切さを伝えていきます。
	3.ブロック協議会で運用できる人財育成パッケージの更新及び支援 現在、全国のメンバーの平均在籍期間は 4 年で入会 3 年未満のメンバーは 50%を下回る。この状況下では入会後により短い期間で JC の意義や地域で果たすべき役割などを理解してもらう必要があることから、ブロックアカデミーや理念共感プロモーター、JC セミナーを活用して短期間で LOM の中核を担える人財育成の支援を行います。
	4 他者を思いやる JC カップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会の企画・実施 国際的に最も盛んなスポーツとされるサッカーを通じて、交流人口を増加促進させることで、コミュニティを活性化し、魅力ある地域の発展を目指します。また、参加した子供たちには「グッドルーザーの精神」(＝たとえ勝負に負けたとしても相手を称えられる強く前向きな心)を伝え、道徳心を育める大会を設営します。
	1. 各 LOM の会員拡大と財政支援方法の検討・実施 近年の新潟県内の JC メンバー数は減少が続いています。これは、人口減少の影響は当然ながら、起業家が少なくなっていることや様々な団体が存在することで、JC を選択する人も少なくなっていることが一因と考えられます。このまま、JC 運動を展開するための人員や事業実施に伴う事業費の減少が続けば各地域での運動継続を困難にさせる恐れがあります。そこで、メンバー数の増加や財政強化につなげるために JC 卒業生や他団体、民間企業との連携を通じて、持続的に LOM が活動できるように支援します。
	2.新潟ブロックコンファレンス企画・開催 より良い新潟県の実現に向けて新潟ブロック協議会は毎年、各 LOM の支援をしながら、新潟県を牽引するための様々な運動を展開しています。この私たちの運動は多くの方との調和によって成り立っており、2024 年度も力強く運動を推進していくために、新潟ブロック協議会をはじめ、各 LOM との連携の礎を築く場が必要です。ブロックコンファレンスで互いの関係性を深め、懇親会の設営によって交流の場を創出し、メンバーが会話を重ねることで互いの信頼強化につなげます。
ブロック協議会 独自の事業	3. 新潟ブロック大会の企画・開催 新潟ブロック協議会は連綿と受け継がれる県内 LOM の絆により運動を力強く展開してきました。今後も新潟県を良くする運動を継続するためには県内 LOM 同士の絆を深め、各 LOM の運動を互いに称え、翌年度に運動を引き継ぐ機運を高める必要があります。ブロック大会の実施を通じて、式典や褒賞などを実施していきます。また、交流を促進する場を提供します。
	4. ブロック協議会内での人財交流の企画・実施 新潟県内のメンバーも在籍年数の短期化が進んでいます。短期化に伴い、通常の活動だけでは卒業までに得られる学びの回数自体が少なくなってしまう。より短期間で成長の機会を増やし、自分の LOM 以外の多くの仲間との友情を育むことが JAYCEE となる上で大切な要素となります。その上で、LOM 間交流を新潟ブロック協議会が起点となっていくことで、事業構築のヒントを学び、より多くの人脈を築く場を構築します。

	5 にいがた子供会議の企画・実施
	新潟県における若者不足は少子化だけの問題ではなく、若者の県外流出が続いていることも要因です。このままでは将来の地域社会を支える青年が減り、地域の衰退を招く恐れがあることから、未来を担う子供たちが新潟県内に留まる仕組みを行政も巻き込んで考えていく必要があります。子供たちが新潟のことについていきいきと議論できる場として、にいがた子供会議をつくります。にいがた子供会議では子供たちによるブレストから行政に対して提言を行うまでをサポートしていきます。サポートの過程で県内の議員にも JC の運動に理解をしてもらい提言に向けてのアドバイスをしてもらいます。
	6 青少年事業の企画・実施
	社会課題を認識して課題解決に向けて取り組むためには、当事者意識をもつことが大事であるが、普段の私生活で社会課題に気付く場面も多くはない。子供たちが様々な観点から物事を考えるきっかけを早い段階で得ることができれば、将来の地域の中核を担う青年として成長し、社会で活躍する可能性が高まります。子供たちが普段の私生活や学校ではなかなか学ぶことができない体験学習をブロック協議会と各 LOM の連携を用いて実施します。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	7 災害ネットワークの体制強化
	近年、日本国内においても様々な自然災害が起こっている。市民のリーダーとして活動をする JC は災害時も率先して行動を行うことが大切であり、ブロック協議会は日頃から発災に備えた各 LOM の連携強化をする必要があります。県内 21LOM の災害ネットワークを確認し、発災時に速やかに支援できるよう災害支援体制を強化します。
	1. 会員拡大の支援: 拡大担当の副会長を設け、各 LOM と連携してブロック協議会一丸となって会員拡大に取り組めます。
	2. 県内外のメンバーとの交流促進: ブロック協議会が起点となって、県内に留まらず、他県のブロック協議会との交流を含めメンバーのつながりを強化します。
	3. ブロックアカデミーの実施: アカデミー事業を通じて、JC の基本的な理念の浸透や個人のスキルアップにつながる事業を行います。